

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

<vol.13>

<川上④ 散策マップ>

市内で7番目の広さを誇る川上地区は、かつての周防、長門両国にまたがる地域だけに、多くの史跡が地域全体に点在する。ふれあいセンターを起点に、長門の国にある史跡を約1時間かけて巡ってみた。



日吉神社や北迫遺跡で歴史を体感 基点に現代彫刻

周防と長門の国境に程近いふれあいセンター(①)を出発し、東西に走る市道南側請川線を西に向



地蔵尊でお参りした

後、国道490号を北上。長い上り坂の途中、左手に見えてくるのが8-11年創建の日吉神社(③)写真)。社殿の手前に猿の石像が2体あり、左が口をふさいだ「言わざる」、右が耳をふさいだ「聞かざる」で、こま犬に代わるものと思われるが、全国的にも珍しいようだ。参拝を済ませ、再び国道を北上し、坂を上る。次の目的地は、市指定史跡の北迫遺跡(④)。(こは弥生時代の貝塚を伴った集落跡で、貝塚からはハマグリやサザエなどが出土しており、当時は海岸線が近くにあったことが分かる。

かう。左手にある「中華そば一久」川上店を見ながら直進すると国道490号にぶつかる。そこにあるのが長福地蔵尊(②)だ。同地蔵尊は1758年の建立以来、地域の人に親しまれており、毎年8月24日に南側自治会の七つの班が持ち回りで例祭を行っている。

遺跡には、2013年に同遺跡保存会が復元した当時の竪穴式住居もある。遺跡を出ると、旧国道490号をたどって南下。交通量の多い現国道とは異なり、静かでのんびりと散歩を楽しむことができる。やがて、目の前に再び一久川上店が現れ、左折し、ふれあいセンターを目指す。

の彫刻「ドリームキャッチャー」(②)が、作者の黄裕栄さん(台湾)のメッセージ「作品は雲と一緒に飛んでいくように見える。勇気をもって夢を追いかけてよう」に元気をもらって散歩を終えた。

ふれあいセンターの登り口には、彫刻「ドリームキャッチャー」(⑤)がまぶしく光る。作者の黄裕栄さん(台湾)のメッセージ「作品は雲と一緒に飛んでいくように見える。勇気をもって夢を追いかけてよう」に元気をもらって散歩を終えた。

北迫遺跡と日吉神社は小学校の遠足以来、約40年ぶりに訪れたが、記憶が薄れ、イメージとは異なっていた。丘陵地帯を開拓した地区だけに、アップダウンは激しく、歩いた距離以上にたぐったになったが、川上だけでなく市の歴史も改めて体感できた。
次回原地区。13日スタート。